

### 3. 地方支配

No. 8

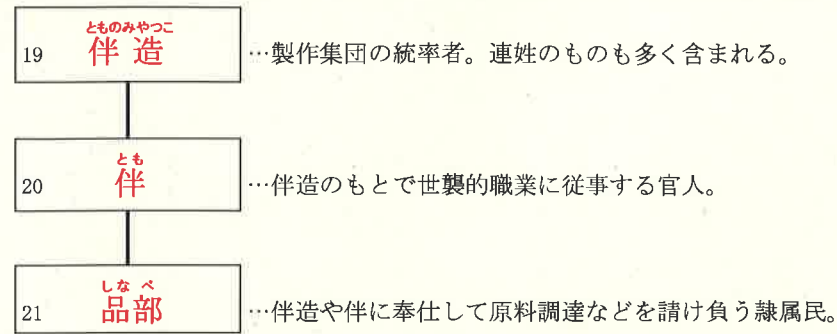
\* 大和政権に服属した地方豪族を「18 <sup>くにのみやつこ</sup>国造<sup>あがたぬし</sup>」や<sup>あがたぬし</sup>県主という地方行政官に任じて、その地域の支配を担当させた。

※ 県主の方がヤマト政権への忠誠度が高かったとされ、西日本に多い。

### 4. <sup>べみん</sup>部民制度～民衆の統率

#### ① 大和政権

☆ 土器の製造や金属製品の製造などさまざまな職掌ごとに、次のような階層の製作者集団を形成。



※ こうした構造を持つ集団に「<sup>からかぬちべ</sup>韓鍛冶部」「<sup>にしごりべ</sup>錦織部」「<sup>すえつくりべ</sup>陶作部」などがある。[No. 7 参照]

#### ② 大王家

☆ 大王家に服従した豪族（国造など）の私有民を一部割いて、奉仕させた。次のようなものがある。

\* 22 <sup>なしろ</sup>名代・<sup>こしろ</sup>子代 … 大王家とその一族の必要物資を貢納する人々。

※ 天皇の宮んだ官や后妃・皇子などの名をとって「<sup>ぬかたべ</sup>春日部」「<sup>おさかべ</sup>額田部」「<sup>はつせべ</sup>刑部」「<sup>はつせべ</sup>泊瀬部」などという。

\* 23 <sup>たべ</sup>田部 … 大王家の直轄地(=24 <sup>みやけ</sup>屯倉)を耕作する農民。

#### ③ 各豪族

\* 25 <sup>かきべ</sup>部曲 … 豪族の私有地(=26 <sup>たどろ</sup>田荘)の耕作などを担当した、豪族の私有民のこと。

※ その豪族の名をとって「<sup>すわがべ</sup>蘇我部」「<sup>おほとも</sup>大伴部」などという。

◇ ヤマト政権の支配下に入った有力豪族のなかから<sup>くにのみやつこ</sup>国造が任命されてその地方の統治を委任されたと考えられます。<sup>いわい</sup>磐井のように反乱に転じる国造もいたようですが、その鎮圧後には各国造の支配地域内にヤマト政権の直轄地である<sup>みやけ</sup>屯倉が置かれるようになるなど政権との関係はより深められたようです。

◇ ヤマト政権内のための仕事、たとえば記録を残す、土器を制作する、武器を制作するなどの各仕事は<sup>とものみやつこ</sup>「伴造」とよばれる責任者によって統括されました。その伴造の統括のもと業務の中心となったのが<sup>とも</sup>「伴」とよばれる役人でした。その伴の指示のもとで資材の調達や各作業にあたった一般作業員は<sup>しなべ</sup>「品部」とよばれました。建設現場に例えるならば、住宅建設を請け負い、依頼者と相談をし、プランニングをする建築会社の担当者が<sup>とも</sup>「伴」とするならば、そのもとで<sup>とも</sup>「伴」にあたる職人（あるいは棟梁）が実際に現場で建設作業の中心として指示を与え、<sup>しなべ</sup>「品部」にあたる多くの作業員または弟子が土台作りとか、壁塗りとか各持ち場で作業を進めていく、といったイメージでしょうか。